

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉県2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北戸田駅前プロジェクト	階数	地上12F
建設地	埼玉県戸田市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	300人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	物販店集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2019年4月1日
敷地面積	1,159㎡	作成者	生和コーポレーション(株)
建築面積	511㎡	確認日	
延床面積	4,786㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

環境品質 Q

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

建設 修繕・更新 解体 運用 オンサイト オフサイト

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レダ-チャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

音環境	2.9
温熱環境	2.9
光・視環境	3.7
空気質環境	3.4

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

機能性	3.3
耐用性	3.1
対応性	3.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

水資源	3.4
非再生材料の	3.2
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.7

地球温暖化	5.0
地域環境	3.0
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 LED照明を採用することにより、設備システムの高効率化に努めた。		特になし
Q1 室内環境 断熱等性能等級4相当と、室内環境の快適性に考慮した。	Q2 サービス性能 耐久性の高い材料を選定し、更新間隔が長くなるよう配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を設けることにより、良好な景観を形成した。
LR1 エネルギー 断熱材を強化し、建物の熱負荷抑制に考慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水機器、節水型便器を採用し、水資源の保護に配慮した。	LR3 敷地外環境 車両出入口と、自転車や人の出入口を分けることにより、渋滞の緩和に努めた。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
(仮称)北戸田駅前プロジェクト

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C
評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.0	
Q1 室内環境					0.40		-	3.2	
1 音環境				2.9	0.15	3.0	1.00	2.9	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音				3.0	0.50	3.0	0.50		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				1.0	0.01	3.0	-		
2 温熱環境				1.5	0.35	3.1	1.00	2.9	
2.1 室温制御				1.7	0.71	3.3	0.50		
1 室温		断熱等性能等級4相当		1.0	0.63	3.0	0.63		
2 外皮性能				3.0	0.37	4.0	0.38		
3 ソーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.29	3.0	0.20		
2.3 空調方式				-	-	3.0	0.30		
3 光・視環境				2.0	0.25	4.0	1.00	3.7	
3.1 昼光利用				1.8	0.31	4.0	0.50		
1 昼光率		住居部分2.0%以上		1.0	0.57	5.0	0.50		
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	0.43	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				1.0	0.29	4.0	0.50		
1 昼光制御		住居部分はカーテンと庇により制御		1.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.14	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.26	-	-		
4 空気質環境				3.5	0.25	3.3	1.00	3.4	
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		内装材料のほぼ全面にF を採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.40	2.3	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				2.0	0.01	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				1.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.1	
1 機能性				2.7	0.40	3.4	1.00	3.3	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		各住戸に光ファイバー・インターネットサービスを導入		3.0	-	5.0	1.00		
3 パリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	1.0	0.40		
1 広さ感・景観				1.0	0.01	1.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				1.0	0.99	1.0	0.50		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		内装に維持管理のしやすい建材を採用		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		廃棄物スペースやコンセントの設置など、清掃環境を整備している		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		石貼り(耐用年数25年)		4.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:フローリング(20年)、壁:ビニルクロス(20年)、天井:ビニルクロス(30年)		4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水(PEP)B、汚水排水(VP)B、通気(VP)A、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			3.4	0.01	3.0	0.50	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		非住宅部分:壁長さ比率0.1以上0.3未満	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.01	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.97	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱等性能等級4相当	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.84	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	0.04	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	0.96	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型水栓、節水型便器を設置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		集成材	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率46%	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		適切な量の駐車場、駐輪場を確保	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)北戸田駅前プロジェクト	BEE	1.6	BEEランク
------	-----------------	-----	-----	--------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
5.0	+	2.6	=	7.6	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減		スコア平均	5.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	5.0
< 配慮した内容を記述 > ライフサイクルCO ₂ 排出量46%で、温暖化対策に配慮した。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
< 配慮した内容を記述 > 緑地を設けることにより、良好な景観を形成した。			

: 入力欄